

町の森林の状況

町の森林面積は6,106ha、町の総面積の52%を占めています。うち4,191haは自然の力で形成された天然林と呼ばれる森林と1,702haはスギやヒノキなどの苗木を人の手で植林して育ててきた人工林と呼ばれる森林です。



町の多くの人工林が植林後生育し、木材として利用可能な時期を迎えています。

また集落近くに広がる里山は生活様式の変化により薪まきの利用等が減少し、人の手が入らず荒廃が進んでいる箇所が多く見られます。

人工林は循環が必要

人工林は「植林」→「育成（間伐などの手入れ）」→「成長した木の伐採」という手順があり、人の手で手入れをしなければいけません。

間伐などの手入れを行わないと、樹木が密集して森林のなか日光が差し込まず、下草が生えないことで土壌が失われ、土砂崩れの原因となります。また、適切な伐採が行われないと、新しい木が植えられず、高齢の木々ばかりとなり二酸化炭素の吸収量が低下します。

よく、「森林破壊の防止のために木は切つてはいけな」と

できること 然の循環～

森林には木材の生産以外にもさまざまな機能があります。

森林を守り育て、未来へ循環させていくことは、山を所有される方だけの課題ではありません。

そこで今回、森林の持つ機能や役割をお伝えし、守り育てていくために皆さんが日々の生活で、できることを紹介します。

森林の持つさまざまな機能・役割

● 地球環境保全

【二酸化炭素吸収】

森林は二酸化炭素を吸収し、炭素を固定して地球温暖化防止に重要な役割を果たしています。日本の森林が吸収する二酸化炭素は年間約1億トンで、国の二酸化炭素排出量の8%、全自家用乗用車の排出する量の70%に相当します。

【化石燃料代替エネルギー】

住宅1棟を建設するとき使用する材料の製造に必要なエネルギー消費から計算すると、放出される炭素量は木造住宅の場合、鉄骨プレハブ造の3分の1、RC造住宅の4分の1となります。また木材を使ったエネルギー利用（木質バイオマスボイラー、薪ストーブなど）は、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えない「カーボンニュートラル」な特性をもっています。

● 水源涵養機能

森林の土壌は雨水を貯め込み、河川へ流れ込む水の量を抑え洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能を持っています。また、雨水が森林の土壌を通過することにより、水質が浄化されます。

森林は他にも土砂災害防止機能、土壌保全機能、生物多様性保全、文化機能などさまざまな機能を持っており、それらをまとめて「森林の有する多面的機能」といいます。

素を吸収し供給する



野生動物の
生息・生育の場

キノコ・山菜などの
林産物を供給

言われることがあります。人工林は違います。左の図のように、計画的に伐採し、切った木を無駄なく利用して、また新しい木を植えるという森林の循環が必要です。



森林の循環のイメージ

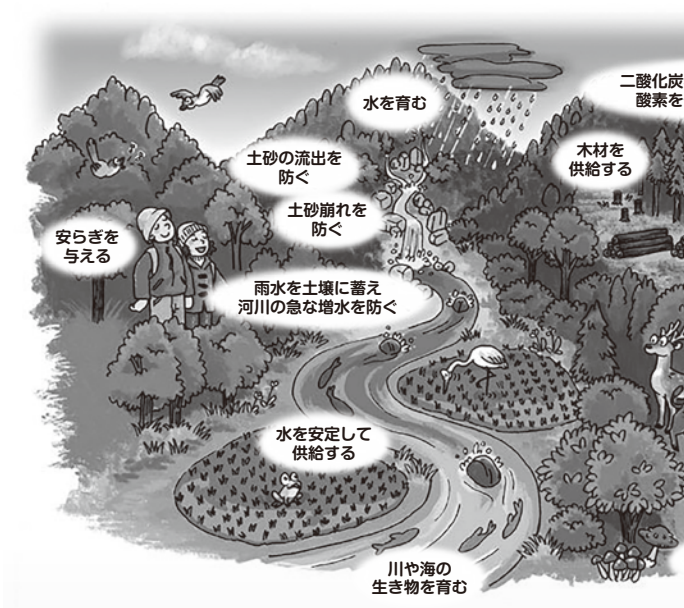
森林を守るために、今私たちが ～木を活かし、森を育て、未来へつなぐ自

次世代が暮らす地球環境を考える

このまま地球温暖化が進行すると2100年には平均気温が最大4・8度上昇すると予測されています。気温の上昇により熱中症での死亡者数の増加や異常気象の増加、農作物の収穫量の減少による食料危機、積雪の減少による水不足などが予測されています。

このような事態を防ぐためにも、平成27年の国連サミットで採択されたSDGs^{（エムアイジェス）}（持続可能な開発目標）において「目標13 気候変動に具体的な対策を」と示されています。SDGsはすべての国のすべての人にとつての共通目標であり、行動指針です。

地球温暖化防止に重要な役割を果たしている森林を守るために、今私達はなにができるでしょうか。一緒に考えてみませんか？



森林の有する多面的機能のイメージ



森林を守るためのアクション

～まずは知ることから始めよう～

● 森林を知る・学ぶ

- ・本やインターネットで森林について調べる
- ・国の林野庁ホームページには職員が製作された森林・林業についての漫画「お山ん画」が掲載されています。
- ・森林に関する映画やテレビ番組を見る



● 森林や木に触れる

- ・キャンプに行き、森で遊ぶ
- ・グリム冒険の森ではキャンプ以外にも木工体験や森の中を歩くウォークラリーなど木や自然に触れる体験ができます
- ・植樹活動や森林ボランティア、緑の少年団に参加する

- ・南比都佐地区では今年度、公民館が中心となり緑の少年団を設立し、子ども達の森林学習や木工体験などを行っています。
- ・登山などに挑戦してみる



● 森の恵みを取り入れる

- ・国産の木材でできた食器やおもちゃ、家具を使う
- ・薪、ペレットストーブなどを使う
- ・地域の木材を使用した紙を使う
- ・役場では、日野町などの湖東地域の山で伐採された間伐材を使用したkikiittoの「びわ湖の森の木になる紙」をコピー用紙として利用しています。
- ・県産材を活用した家を建てる



滋賀県では県産材の利用促進を目的に、住宅新築時や耐震改修を行う際に、一定量以上の「びわ湖材（産地証明された県産材）」の活用に対し補助があります。

● 木の香る淡海の家推進事業

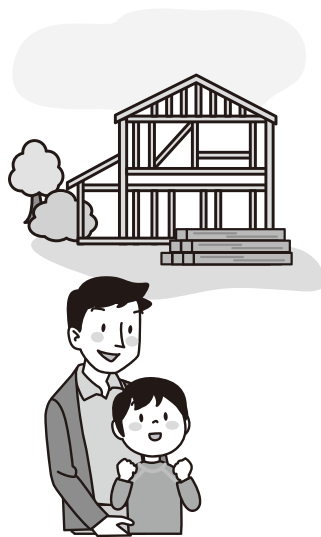
【補助額】

- ① 一戸建て住宅の新築（40万円または30万円/戸）
- ② 既存住宅の木質化改修3,000円/㎡（上限20万円）
- ③ 木塀の設置5,000円/㎡（上限30万円）

※県内で建設業を営む大工さんや工務店が申請を行う補助金です。詳細は左記へ問い合わせてください。

◆ 問い合わせ先

県産木材活用推進協議会 ☎077-574-7600



森林を守る方々の活動を紹介します

綿向生産森林組合



西村聡参事(猫田 写真左) 嶋村寿雄組合長(北畑 写真右)

● 森林管理認証の取得

国際的な基準をもとに適切な森林経営が行われていることを認証する森林認証を平成29年に取得しました。組合で生産された木材は環境、経済、社会の側面において適切に管理された木材(認証材)として流通しています。

● Jクレジットの取り組み

森林経営などの取り組みによる、温室効果ガスの吸収量を「クレジット」として国が認証し、温室効果ガスの削減やCSR活動に取り組み企業に売却できるJクレジット制度への取り組みを計画しています。

地球温暖化など環境の問題が取り上げられるようになって組合としても危機感と取り組みの必要性を感じています。

食べ物の地産地消と同様に環境面でも町内の工業団地などの企業にクレジットを購入していただき、温室効果ガスの地産地消を進め、地域へ貢献したいと思っています。

綿向生産森林組合は、山を育て木材を生産することを目的に、日野、西大路、鎌掛地先の財産区が集まって昭和39年に設立された組合です。綿向山や鎌掛谷ほんしゃくなげ群落も組合が所有する山林です。

木材の生産に限らず環境を意識した取り組みをされています。

日野町林業研究グループ



桜谷小学校での鳥の巣箱づくりの様子

● 学校林の整備や森林学習

地域の方々と共に桜谷小学校の学校林の整備に協力し、子ども達の学びのためのフィールド作りやビオトープづくりを行っています。また学校林にある資源を活用して、しいたけ栽培や鳥の巣箱作りなど子ども達の山に関する体験学習を支援しています。

● 第72回全国植樹祭の協力

令和4年の春に滋賀県で全国植樹祭が開催されます。植樹会場で使用する苗木を育てる「苗木のホームステイ」の取り組みに参加しました。また植樹祭の関連事業で、全国の林業関係者を対象に行われる第50回全国林業後継者大会にも協力します。

全国植樹祭って？

森林・緑に対する国民の理解を深めるために、毎年春に開催されている国土緑化運動の中心的行事です。天皇皇后両陛下のご臨席を賜るとともに、県内外から多くの参加者を迎え、式典行事や記念植樹が行われます。令和4年は6月5日(日)に滋賀県で開催され、甲賀市の「鹿深夢の森」が式典会場となっています。

日野町林業研究グループは山と触れ合い、山について学ぶことを目的に活動されている団体です。会員は山林所有者以外にも山に関心のある方も参加されています。

地域の方々や子ども達と関わりながら山や林産物に関わるさまざまな取り組みをされています。